



医師会 健康講座

「えっ！タバコが1箱3,000円!!」

わたなべハートクリニック (朝日町) 渡辺 潤



「タバコが1箱3,000円になるんだって!」

愛煙家の人は、「そんなバカな!」とびつくりされるでしょう。でも、本当なんです。ただし、日本の話ではありません。

2016年5月オーストラリア政府が発表した予算案で、タバコ税の増税計画が発表されました。その内容は、タバコ税を2017年から5年間、毎年12・50%増税するというものです。現在でもオーストラリアでは、1箱25豪ドル(2016年6月27日現在1豪ドル76円)≒1,900円と非常に高価ですが、毎年3、4豪ドル値上げされ、2020年には40・06豪ドル≒3,045円になる予定です。すごい値段ですね。とても庶民が買える金額ではないですね。ではオーストラリアの喫煙率はどのくらい?随分低いと思われるですね。正解は15%です。びっくりです!この値段(1箱1,900円)で吸える人がまだ15%もいるなんて、とても信じられません。

日本の喫煙率は、以前は男性は90%を越えていましたが、タバコの値段が上がったこと、「taspo」の導入、喫煙できる場所が減ったこと、禁煙教育などのおかげで、男性でも30%程度まで減っています。それでも先進国の中では、非常に高い喫煙率です。

タバコは「百害あって一利無し」と言うことは、もはや世界中の常識になっていきます。世界中の国が、自国民をタバコの害から守るため、いろいろな法律を整備して喫煙率0%を目指しています。

以前、まだ禁煙治療が健康保険で認められていないころから禁煙クリニックを始め、もう長い間禁煙治療に携わって来ました。現在も毎年70人くらいの患者さんが、禁煙目的で来院されます。

タバコは中に含まれているニコチンに非常に強い嗜癖性があるため中毒になりやすく、禁煙しようとしても禁断症状が強く出るため、自分でやめようと思っても、理性

の力だけで禁煙に成功することは非常に難しいのが現実です。

現在、禁煙治療薬として飲み薬と貼り薬の2種類が健康保険で認められています。これらを使って禁煙にチャレンジすれば、思いのほか簡単に禁煙に成功します。禁煙を考えている人はぜひ試みてください。

とはいえ、15年以上毎年70人の患者さんが来院され、禁煙クリニックで治療しても、1,000人喫煙者が減っただけです。中には喫煙を再開されている人も珍しくありません。

やはり「元を断たなきゃダメ!」です。

そのためには、中学生、高校生、大学生などの若者にタバコに近づかないようにさせることが大事です。

白髪の私がコンビニでビールを買うとき、とても20歳以下とは思えないのに、20歳以上であることを確認するために、画面にタッチすることを求められます。中学生

がタバコを買うとき画面にタッチすれば、売ってくれるのでしょうか?こんな責任逃れだけが目的の子どもだましのよつな方法でなく、根本的な方法が必要です。

どうすれば良いでしょうか?

愛煙家(この言葉にも少し欺瞞を感じますが)には申し訳ありませんが、タバコ税を上げることです。せめて、欧米並みに1箱1,000円以上にすることが必要です。どうせ上げるなら一気に上げることで。そうすれば、喫煙率は激減します。中学生や高校生、若者がタバコに手を出せなくなります。喫煙率が下がっても税収が減ることはありません。税金は、高いタバコが購入できる富裕層(?)に払ってもらいましょう!

日常診療で、肺がんや肺気腫、心臓病の人などタバコと関連した病気の人に多く出会います。「タバコを吸わなかったら、今の状況は無かったかもしれない」と思う人がいなくなることを希望します。